

鳥取港長期構想検討委員会 第3回委員会
議事概要

日時 令和2年2月21日(金) 13:30~15:30

場所 賀露地区公民館 3階大会議室

【松見委員】(国立大学法人 鳥取大学)

- P. 59 「船舶航行の安定化」(埋没)と「港内静穏度の確保」(第一防波堤の越波)が喫緊の課題への対策と理解している。港湾形状の変更も理解できる。
- 「船舶の大型化」については、現在、貨物が特定化しており、他業者が利用しづらい状況(ヤードの占有状態)になっている。大水深岸壁の整備により新たな貨物(企業)に対応できると理解している。
- P. 65 「港内静穏度の確保」は、第一防波堤の嵩上げと共に港湾形状を変更する短期計画とした方が将来の計画にマッチする。
⇒沖合の波向きが西向きから東向きに変化している。また、千代川からの流入も発生している。そうした中で、東からの流入に対応する第二防波堤の整備が港内静穏度を確保する上で効果的と考え、港形を検討した。【事務局】
⇒短中長期に分類している中で、「静穏度の確保」は中期計画(5年~15年)と記載しているが、なるべく、5年に近い計画で取り組みたいと考えている。【事務局】

【馬場委員】(国立大学法人 鳥取大学)

- 船舶の大型化により、運ばれる貨物が限定されることや、ロットの組み合わせの工夫が必要になる場合、鳥取ならではの荷物の在り方が求められる。地元の企業の考え方、要望(モーダルシフト、人員不足等)が重要となる。
⇒P. 48 背後企業にヒアリングを実施している。今後、船舶の組み合わせや航路の在り方を考えながら、ポートセールスしていく。【事務局】
- 倉庫などの作業場所が確保できるのか気にしている。
⇒P. 68 生産活動ゾーン①南側の岸壁(大型船に対応できない)の背後を港湾関連用地として利用したいと考えている。【事務局】

【深田委員】(日本通運株式会社 鳥取支店)

- P. 60 コンテナターミナル計画について、具体的に決まっていれば、教えて頂きたい。
⇒トライアル輸送を実施するための予算要求(令和2年度)をしている。【事務局】
- 近隣の境港や舞鶴港との意見交換は重要となるが、横のつながり(検討会等)はあるか。
⇒今後取り組む必要があると考えている。【事務局】

【広坂委員】（小型船婦人部）

- 港やその周辺の環境は大きく変化している（大型船の歓迎イベント、港が広くきれいになりイベントによる来訪者が増加、背後道路の交通量が増加）。
⇒P. 6 鳥取県道 41 号鳥取港線の道路交通量が増えている。緑地整備（交流ゾーン②）の際に、留意して整備に取り組む。【事務局】
- うねり止めの波除堤撤去により、冬季（12月～3月上旬）は、北、北東の風で岸壁や船舶への衝突が生じている。漁船を大橋側に退避させているが、船が泊めにくく困っている。
⇒港内静穏度が悪いと認識している。早急に整備したい。【事務局】
- 漁業者が減少しているが、今後漁業を担う人が増えることに期待している。

【羽場委員】（鳥取市）

- 3道路（鳥取自動車道、山陰道、山陰近畿自動車道）整備によりミッシングリンクが解消し、港湾背後への I.C. 整備が検討され、エリアに活気生まれる良い機会である。
- 沖合展開は、中期計画だが早いうちに取り組むと説明があったので、期待している。道路整備とリンクしながら進めることが重要である。

【岸委員】（鳥取市賀露地区公民館）

- 賀露の文化活動・遺産には、日本遺産「北前船」の寄港地、吉備真備の歴史等がある。資料館等を整備し、賀露の事を多くの人に知って頂きたい。
- 道路の交通量が増えている。信号を設置して欲しい。今後、港湾整備が始まり、工事車両の増加が考えられる。早朝は通学時間との重なり、夜間は騒音の問題を懸念している。
⇒地元と調整や住民の安全を考慮した計画としたい。【事務局】
- 賀露がきれいな港になり、多くの人が行き交うことを期待している。

【坂井委員】（国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部）

- P. 59 港内静穏度の確保について、鳥取県と共に整備局も抜本的対策に取り組む。現港湾計画で整備が進められる個所は既に取り組んでいる。出来ることから着実に進めていく。
- P. 68 賑わいについては、マリニピア賀露周辺は賑わっているが、クルーズ船岸壁から離れているので、周遊性の確保や賑わいの演出が重要となる。「賑わいづくり検討会」の意見を踏まえて取り組みを進めていただきたい。また新たに導入された観光税等の財源を活用して取り組むことも考えられる。
- 物流については、道路ネットワークの拡大により、背後圏が広がり新たな将来貨物が見込まれる。岸壁の沖合展開に向け、確実な貨物を整理し、将来の整備に繋げたい。

【鈴木委員代理】（国土交通省 中国地方整備局 企画部）

- ここ数十年で、かなりの高規格幹線道路網が整備され、南北線の整備も決定した。
- P. 25 南北線の整備ルートは、ワークショップやオープンハウスで地域住民の意見を聞き、「港や空港との接続」への意見が多かったことも踏まえ、港に近いルートが決定された。港に近い位置に I. C. の候補地があり、フル I. C.（東西の両方にアクセス可）の予定である。有効活用して港の強化に繋げては如何か。
- 平成 30 年 7 月豪雨時、呉市では、陸上交通が全て寸断されたが、海上からの物資輸送が行われた。防災機能に期待している。

【佐々木委員代理】（海上保安庁第八管区海上保安部 境海上保安部）

- P. 7 での意見「～岸壁能力を超える船舶が入港している等」への対応方針について、以下の通り修正頂きたい。
対応方針：「港湾の施設の技術上の基準・同解説」に基づき計画している
- 港の発展には、航行安全の確保が重要と考えている。港湾計画改訂にあたっては、大型船の操船者（水域利用者）の意見を反映の上、鳥取港が安全性の高い港と認識されるような検討を行って頂きたい。

【松見委員】（国立大学法人 鳥取大学）

- 今後、3つの道路（鳥取自動車道、山陰道、山陰近畿自動車道）が無料で繋がり、舞鶴港との連携もしやすくなる。
- トラック関連の委員会（※委員を務める）では、労働時間の問題が求められており、長時間・長距離運転が難しくなっている。陸上輸送と連携した港の発展も考えるとよい。
- 鳥取港がコンテナターミナルとしての機能を備え、ヘッド車両が行き来する物流形態になれば、港の利用価値が上がり、背後地域が広がる。別途、検討しては如何か。

【須野原理事長】（日本港湾協会）

- 委員からの意見に大きな変更点は無かった。今後、事務局より、体裁を整え成案とする。

以上